



敦賀海上保安部  
平成29年9月19日

### 夏季における船舶事故及び人身事故発生状況について(速報値)

～ 事故隻数は昨年比2隻減(11隻)、人身事故者数は昨年比6名減(16名)～

敦賀海上保安部では、夏のマリンレジャーが活発化する7月1日(土)から8月31日(木)までの間における福井県沿岸海域の船舶事故及び人身事故の発生状況等について以下のとおりまとめました。

#### 1. マリンレジャーに伴う船舶事故発生状況 別紙1

##### (1) 事故発生状況

・発生隻数11隻(昨年比2隻減)、事故に伴う死者・行方不明者数0名(昨年と同じ)

(グラフ1-1 参照)

##### (2) 船舶事故の傾向

・事故種類別では、機関故障が最も多く4隻で、次に運航障害が2隻(グラフ1-2 参照)

・船舶種類別では、プレジャーボート(ミニボート、無動力船除く)が6隻で、次に水上オートバイが2隻(グラフ1-3 参照)

・船長の居住地別では、関西・中京地区の方が約9割、福井県の方が約1割(グラフ1-4 参照)

・船長の年代別では、40代・50代が共に約3割(グラフ1-5 参照)

##### (3) 事故事例

事例3件別紙1記載

#### 2. マリンレジャーに伴う人身事故発生状況 別紙2

##### (1) 事故発生状況

事故者数16名(昨年比6名減)、うち死亡者数3名(昨年比4名減)であり、死亡者数が過去5年間で平成26年と並び最少となった。(グラフ2-1 参照)

##### (2) 事故の傾向

・活動内容別では、遊泳中が最も多く約7割(11名)を占め、うち2名が死亡(グラフ2-2 参照)

・飲酒のうえ遊泳中に溺れた者が3名でそのうち2名が死亡(グラフ2-3 参照)

・居住地別では、約8割(13名)が関西・中京地区に居住する方の事故(グラフ2-4 参照)

・年代別では、30歳以下の若年層が全体の約6割(9名)を占めている(グラフ2-5 参照)

##### (3) 事故事例

事例3件別紙2記載

### 3. マリンレジャー安全推進活動状況 別紙3

- (1) マリンレジャー客に対する「海の事故ゼロキャンペーン」
- (2) 各種メディア等を活用した船舶事故・人身事故防止啓発活動
- (3) 現場における船舶事故・人身事故防止啓発活動





## (2) 事故の傾向

- ・事故隻数は11隻で昨年の13隻と比較して2隻減となっています。(グラフ1-1 参照)  
なお、事故に伴う死者・行方不明者数はありませんでした。
- ・事故種類別では、機関故障が最も多く4隻、次いで運航阻害が2隻発生しており、全体の約5割近くを占めています。(グラフ1-2 参照)
- ・船舶種類別では、プレジャーボートによる事故が6隻で昨年の8隻と比較して2隻減となっているものの、依然として全体の約6割を占めています。(グラフ1-3 参照)
- ・船長の居住地別では、関西、中京地区が約9割、福井県が約1割となっています。(グラフ1-4 参照)
- ・船長の年代別では、40代・50代が約3割で全体の約6割となっています。(グラフ1-5 参照)

## (3) 事故事例

発生日時 平成29年8月12日(土)

発生場所 南越前町河野沖合海域(事故種別:機関故障)

概要 事故船舶(プレジャーボート)の船長(愛知県在住)は同乗者1名を乗せ、河野漁港沖合1キロ付近において錨を入れ、午前8時頃から釣りを開始した。同日午後零時頃、帰港のため、錨を揚げ航行を開始したものの、間もなく機関が停止したので起動を試みたが起動できなかった。その後、風浪により船体が付近岩場に接近したことから、同乗者を同岩場に移動させた後、118番通報した。

同通報を受けた敦賀海上保安部から出動要請を受けた南越前町水難救難所所属の救助船2隻により曳航救助された。

船長、乗船者に怪我等なし。

後日、業者により故障原因を確認したところ、燃料フィルターが詰まり燃料を送ることができなくなっていたことが判明した。

発生日時 平成29年8月20日(日)

発生場所 大飯郡高浜町若狭和田海水浴場沖合海域(事故種別:転覆)

概要 船長(京都府舞鶴市在住)は、浜茶屋から事故船舶(手漕ぎボート)をレンタルし、同乗者2名を乗せ、同海水浴場沖の島に向かった。同島にて休憩の後、手漕ぎボート初心者の同乗者が漕艇し、海水浴場向け航行中に船尾方向から波を受け、ボートが揺れた際、同乗者が転覆を恐れて急に立ち上がったことから、さらに大きく揺れ転覆した。

転覆後、船長ら3名は付近の手漕ぎボートにより救助され、帰浜した。

乗船者1名は、肺水腫の疑いがあるため1日入院した。

全員救命胴衣未着用であり、内1名は飲酒をしていたことが判明した。

発生日時 平成29年8月27日(日)

発生場所 敦賀市水島付近(事故種別:運航阻害)

概要 事故船舶(プレジャーボート)の船長(岐阜県在住)は同乗者3名を乗せ、敦賀市水島付近において錨を入れ、午前5時頃から釣りを開始した。同日午後2時頃、帰港のため、エンジンを起動させるも、バッテリー過放電のため起動せず、身動きが取れなくなり、118番通報した。

同通報を受け、巡視船が出動し、事故船舶を曳航救助した。

帰港後、ジャンプスターターを使用し、バッテリーは復旧した。

船長、乗組員に怪我等なし。

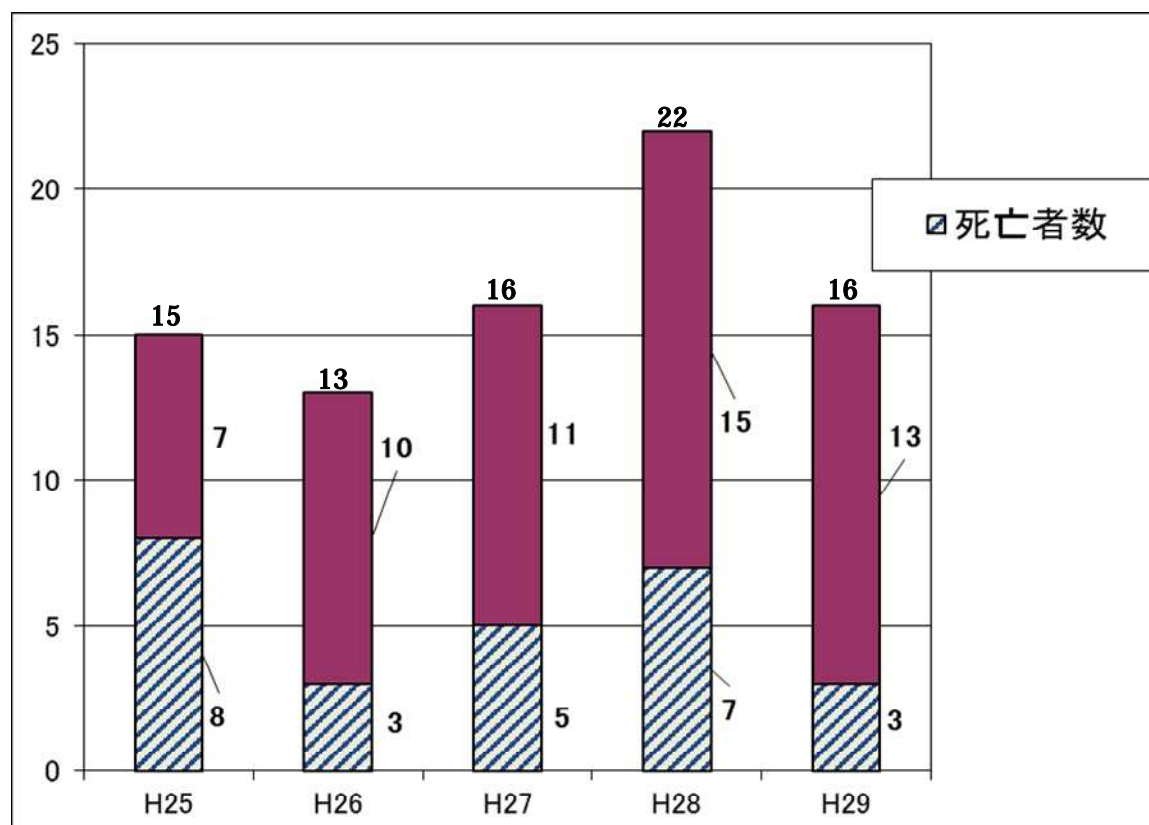
同船長は、発航前点検を実施していたものの、バッテリーの残量を確認しておらず、点検が不十分であったことが判明した。

## 2. マリンレジャーに伴う人身事故発生状況(7.1～8.31)

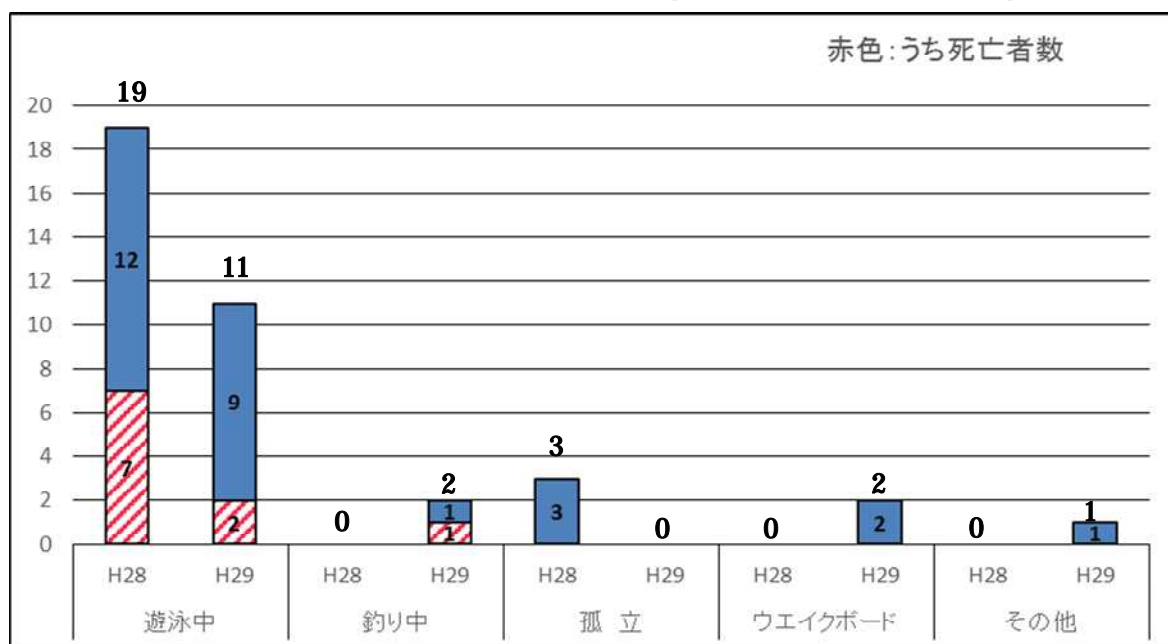
### (1) 事故発生状況

マリンレジャーに伴う人身事故者数は、16名(昨年22名)で昨年比6名減となり、死者数は3名(昨年7名)でした。

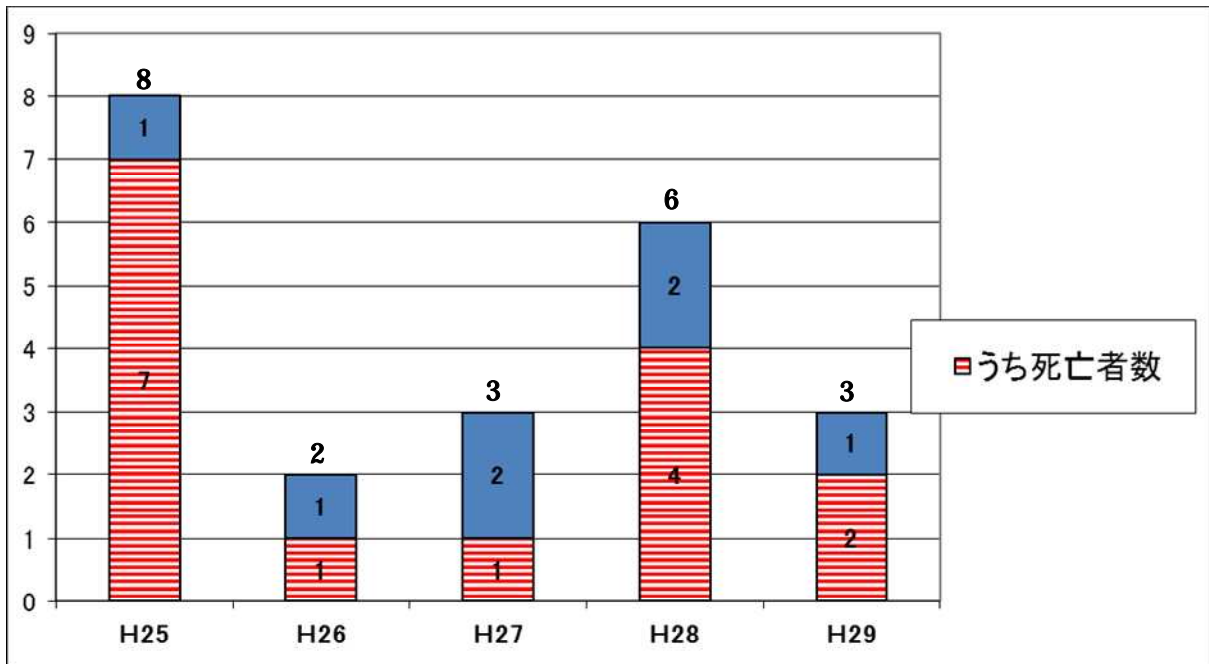
グラフ 2-1 年別人身事故発生状況(事故発生者数 H25～H29)



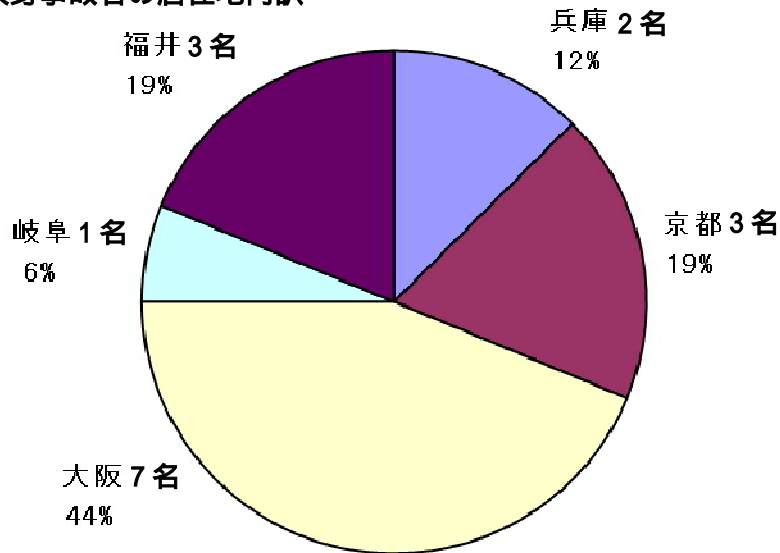
グラフ 2-2 活動内容別事故発生状況(事故発生者数 H28・H29)



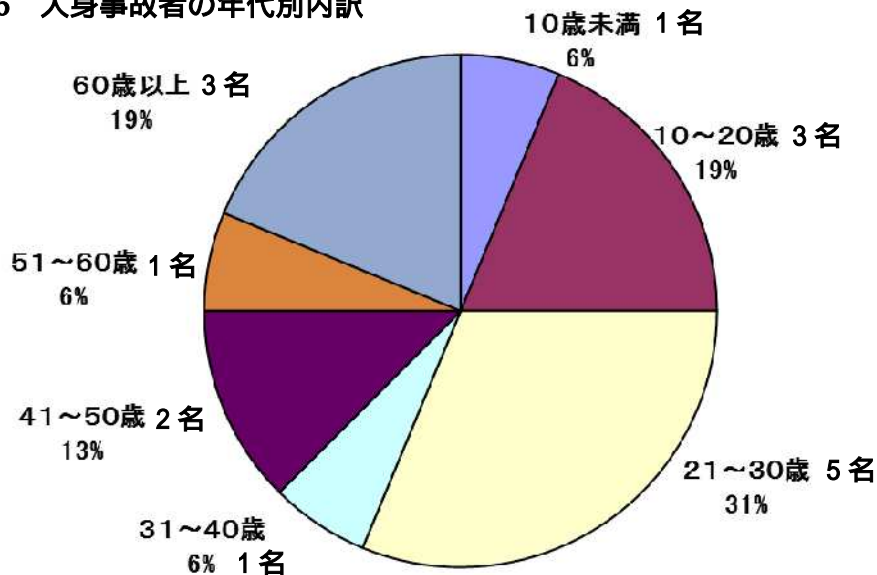
グラフ 2-3 飲酒事故発生状況（事故発生者数 H25～H29）



グラフ 2-4 人身事故者の居住地内訳



グラフ 2-5 人身事故者の年代別内訳



## (2) 事故の傾向

- ・人身事故者数は16名、うち死亡者数は3名となり、事故者数は昨年と比較すると6名減少しており、死亡者数は昨年の7名に対し、今年は4名減の3名でした。(グラフ2-1 参照)
- ・活動内容別では、遊泳中が最も多く約7割(11名)を占め、うち2名が死亡しました。(グラフ2-2 参照)
- ・飲酒のうえ遊泳をおこない溺れたのは3名でありそのうち2名が死亡しました。(グラフ2-3 参照)
- ・居住地別では、約8割(13名)が関西・中京地区に居住する人の事故となっています。(グラフ2-4 参照)
- ・年代別では、30歳以下の若年層が全体の約6割(9名)を占めており、このうち、10歳未満の子供の事故が約2割弱(1名)でした。(グラフ2-5 参照)

## (3) 事故事例

発生日時 平成29年7月15日(土)

場 所 福井県小浜市阿納海水浴場

事 故 者 49歳 男性(兵庫県在住)

概 要 事故者は同僚等6名とともに阿納海水浴場に訪れ、遊泳を始めた。その後、昼食中に飲酒のうえ、引き続き遊泳を行っていた。

事故者の妻が帰り支度を始めた時、事故者は、海水浴場沖の筏上(5メートル四方)に横たわっており、妻が帰る旨伝えたところ、事故者から了解した旨返事があった。

その後、発見者が遊泳中、足に何かが触れ、違和感を覚えたことから水中を確認したところ、同筏下水深約2メートルで事故者を発見した。

発見時、事故者は心肺停止状態で救急車により病院へ搬送されるも死亡が確認された。死亡原因は溺死。飲酒あり。

発生日時 平成29年7月30日(日)

場 所 福井県敦賀市気比の松原海水浴場

事 故 者 4歳 女児(福井県在住)

概 要 事故者は、母親が見守るなか、海水浴場管理者が砂浜から沖に約3メートル、水深1.5メートル程度の位置に設置した子供専用のフロート遊具上で遊んでいた。

その後、母親は、事故者が見えなくなったことからを探していたところ、叫び声が聞こえ、大人3名に抱えられた事故者を発見した。

母親は事故者を砂浜に寝かせ、背中や頬を叩き呼掛けたところ、海水と昼食を吐き出し、意識を取戻したことから、救護所を通じて119番通報した。

事故者は、救急隊により病院に搬送され、検査を受けた結果、肺水腫が認められたため、経過観察入院となり、翌日退院した。事故者に怪我等なし。

発生日時 平成29年8月21日(月)

場 所 福井県三方郡美浜町水晶浜海水浴場

事 故 者 20歳 女性(大阪府在住) 21歳 女性(大阪府在住)

概 要 事故者らは、同僚男性8名、女性7名で水晶浜海水浴場に訪れ、フラミンゴ型の浮具に事故者が乗り、遊泳区域内で浮かんでいたが、風浪により次第に遊泳区域を隔てるロープ付近まで流され、助けを求めて手を振るも気付いてもらえず、さらに沖に流された。

この状況に気付いた浜茶屋の従業員が118通報し、その後、事故者は、美浜救難所所属の救助船に救助され帰浜した。

事故者に怪我等なし。飲酒なし。



### 3. マリンレジャー安全推進活動状況

別紙 3

#### (1) マリンレジャー客に対する「海の事故ゼロキャンペーン」

福井県内では例年マリンレジャーによる事故者の約8割が中京・京阪神からの県外者で占められていることから、昨年に引き続き事故防止を呼びかける「海の事故ゼロキャンペーン」を、道の駅、県内海水浴場においてマリンレジャーに向かう人達に行いました。



#### (2) 各種メディア等を活用した船舶事故・人身事故防止啓発活動

7月1日から8月31日の間、敦賀 FM 放送を通じ、海での事故防止を呼びかけました。

また、県外者を対象とした活動の一環として、福井・滋賀・岐阜の各県庁が開設している SNS サイト、自治体発行の広報紙等に啓発文の掲載依頼を実施し、ネットワークを通じて海での事故防止を呼びかけました。



滋賀県  
海の事故防止

夏のマリンレジャーシーズン！！  
海上保安庁敦賀海上保安部と滋賀県からのお知らせ  
福井の海水浴場は7月上旬から順次海開きが行われていますが、毎年レジャー中の海浜事故や船舶海難が多発しており、楽しいはずの休日が一転して悲惨な結果を招くケースが後を絶ちません。  
長時間の運転後や飲酒後の遊泳は事故リスクが高まります。十分な体調管理のもと、夏のマリンレジャーを楽しみましょう！！  
詳しくはホームページをご確認ください  
第八管区海上保安本部  
HP <http://www.kaiho.mlit.go.jp/08kanku/kainan/kainantop.html>  
敦賀海上保安部  
HP <http://www.kaiho.mlit.go.jp/08kanku/tsuruga/>

**守って安心！  
海のルール**

海水浴の方へ  
毎年海水浴シーズンに多くの方々が亡くなっています！！  
①小さいお子さんから目を離さない！！  
②お酒を飲んだら海に入らない！！  
③波が高い時は海に近づかない！！

レジャーボート・ヨットの方へ  
①ライフジャケットの常時着用  
②携帯電話による連絡手段の確保  
③発航前に気象海象の確認

海で安全に楽しく遊ぶために～大切な命は自分で守りましょう～

緊急時「118番」 0773-78-0080

### (3) 現場における船舶事故・人身事故防止啓発活動

釣り客やプレジャーボート・水上オートバイ・ミニボート等の乗船者に対し、救命胴衣の着用の徹底等呼びかけたほか、釣具店や貸しボート店、浜茶屋を訪問し、来店者に救命胴衣の着用や自己救命策の確保の徹底、飲酒遊泳の危険性、水上オートバイの安全運航など、安全で事故のないレジャーを心がけるよう周知を依頼しました。



その他、海水浴場に開設する浜茶屋に対し、飲酒遊泳危険を呼掛けるポスターを配付し、飲酒遊泳の危険を呼掛けるよう周知協力を依頼し、また、マリーナに対し、水上オートバイ操縦者への注意事項を呼掛けるポスターを配付し、利用者への周知を依頼しました。



敦賀海上保安部では、船舶事故及び人身事故の事故原因を検証し、今後とも事故・人身事故防止活動の一層の強化を図るほか、自治体・消防・警察等関係機関との連携も更に強化し、船舶事故・人身事故の減少に向け取り組んでまいります。